

令和2年度 四季の里 事業所別事業計画及び事業報告

エリア	事業所	事業計画	事業報告
四日市	GH 四季の里	<ul style="list-style-type: none"> ① 地域社会で自立した共同生活を送れるよう日常生活上の必要な援助。 ② 高齢の利用者層に対応できるよう医療と連携した支援体制を構築。 ③ 利用者が安心して生活を送れるように安全面・衛生面の環境を整備。 ④ 利用者の権利や人権を守るため関係機関と連携を深める。 ⑤ 「より質の高い福祉サービスの提供」を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 「地域での自立」の為に、困っている事の支援等を都度行った。 ② 訪問看護事業所とも連携出来た。必要に応じて受診同行等行い医療面・安全面の環境整備はできていた。 ③ 環境整備等通して環境の改善に務めた。安全、衛生的な観点から見ると、ハード的に問題が残る。階段からの転落による負傷者4名。ハード面では同じ課題が毎年残り改善の見通しが立っていない。 ④ 権利擁護、行政機関、青年後見人等、利用者の人権を守るために各関係機関と必要に応じて連携を行うことが出来ていた。 ⑤ 各研修を用い、支援の質の向上に務めた。一方、外部機関による研修、個々の勉強会などは開催出来ず、研修以外の具体的な動きは日ごろの実践にとどまる。GH だけでは支援策を見出すことができないケースについては、HANA と連携し合同で事例検討会を開き、情報共有・支援内容・支援方針について検討する事が出来た。
	あおぞらワーク	<ul style="list-style-type: none"> ① 利用者様の活動が幅広く満足に選択出来る活動・プログラム作り。 ② 作業と支援の両立。 ③ 多種多様な障害・高齢化に対応出来る体制作り。 ④ 地域移行を目指し、個人が自立した生活を送る為の支援実施。 ⑤ 関係機関との連携をスムーズに行い、地域社会へ送り出す利用者を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 送迎の希望や環境的な希望を聞き、見学案内やサービス利用につなげることができた。また、レクリエーションではコロナの影響により全員で出かけることは控えたが、小グループで実行することで落ち着いて過ごすことができる事に好評を得ることができた。 ② 訴えのある利用者を中心に傾聴するなど作業以外の支援も行えるようになった。 ③～⑤ ケース会議を行い、利用者の課題となる点を話し合いながら、その利用者ができることを活動や作業に取り入れ、その時々状況や様子を関係機関と連携をしながら支援を行うことができた。
	みのり工房	<ul style="list-style-type: none"> ① 将来的に就労を目指す利用者に対し先を見据えた支援。 ② 日中活動の安定を図るため健康面・対人面等の支援に力を入れ、利用者の継続的な通所に繋げる。 ③ 就労支援体制を強化し、利用者の就労に対する意識向上を図る。 ④ 就労定着の安定。 ⑤ 地域とのつながりを深め社会的な関わりの機会を創出。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 職員より聞き取りを行って、アプローチをかけ支援を行った。 ② 健康面・対人面について、勉強会を定期的に行って支援を行った。 ③ 就労支援体制の強化については、就労プログラムにて意識向上を図ることができた。 ④ 就労定着の事業を開始してからは、安定している。 ⑤ コロナウイルス感染防止の為、できなかった。
	コミュニティハウスオレゴン	<ul style="list-style-type: none"> ① 利用者の参加意欲を掻き立てるプログラムの提供と再構築。 ② 通所すると自分の健康や衛生面を見直すことができる事業所を目指す。 ③ 家庭や関係機関とのつながりを構築し、支援の一体化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 随時、新しいプログラムを検討し日々の活動に導入することができた。 ② 利用者が健康面を意識できるよう、定期的な健康プログラムを提供することができた。 ③ 利用者への支援にあたる際に関係機関との連携を意識することができた。
	障害者相談支援センターHANA	<ul style="list-style-type: none"> ① 困難ケースに対応していくため、広く多様なジャンルの研修・事例検討会に参加し、知識・スキルや支援力の向上。 ② 地域包括ケアシステム構築のため、インフォーマルな社会資源を含む関係機関との連携強化。 ③ 計画相談の目的を意識し、利用者の望む生活に向けて質のあるサービスを提供。 ④ 精神科病院、救護施設等への地域移行の実績を踏まえ、地域移行支援への理解・啓発。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 今年度は新型コロナウイルスの影響にて、インフォーマルな社会資源を含む関係機関に直接足を運ぶことは控えた為、十分には出来ていない。 ② 外部研修は限定せざるを得ない状況であり、支援力向上となる目標を十分達成することが出来たとは言いがたい。しかし、部署内での事例検討等は継続して取り組めており、今後は感染対策を前提とし、オンラインを活用しての研修や支援の在り方・参加を検討していく予定。 ③ 質あるサービス提供は、権利擁護や人権を踏まえた部署内グループワークや事例検討にて、自らを振り返る機会をもった。今後は計画相談の目的を意識すると同時に、職員の業務量を踏まえて支援数や業務の割振りを柔軟に調整していく必要がある。

令和2年度 四季の里 事業所別事業計画及び事業報告

鈴鹿	ブナの森すずか	<p>①利用者支援を丁寧を実施し、虐待防止に努める。</p> <p>②障害者に対する権利擁護の意識を高め、虐待防止に努める。</p> <p>③風通しのよい職場作りに努める。</p> <p>④住みよい生活環境を提供。</p>	<p>①虐待防止対策を実施し、昨年度に比べて丁寧に支援ができた。</p> <p>②継続して虐待防止対策を実施しているが、マンネリ化している内容があった。</p> <p>③徐々に風通しの良い職場に改善できている。</p> <p>④経費節減しながら取り組んだ。</p>
	パートナー	<p>①個別支援と家族支援を意識したサービス提供の実施。</p> <p>②他機関、他職種との連携を図り、問題等の早期解決。</p> <p>③地域のニーズに沿った事業展開の検討。</p> <p>④全職員のスキルの向上及び職員研修の実施。</p> <p>⑤人材確保及び養成の充実。</p> <p>⑥利用者様の特性に合わせて、環境整備を実施。</p>	<p>①コロナ禍であったが、可能な限り実施できた。</p> <p>②実施できた。</p> <p>③コロナ禍の中、工夫して実施できた。</p> <p>④可能な限り実施に努めることができた。</p> <p>⑤人材確保及び育成は実施できた。</p> <p>⑥扉交換工事が実施できた。</p>
伊勢	GH いせ	<p>①利用者が生活しやすいように安全面、衛生管理を継続。</p> <p>②緊急時対応のスムーズな対応</p> <p>③利用者のニーズに沿える支援ができるように職員研修を実施。</p> <p>④利用者が楽しんで健康支援に参加。</p>	<p>①マニュアルを見直し、居室衛生、定期的な換気や消毒などを徹底し、利用者にはマスク、手洗いなど衛生管理を声がけし、感染者を出さないように見守ってきた。</p> <p>どっこいは、防水工事を含めた外装工事ができ、他のグループホームにおいても老朽化したエアコンの取替など各所修繕を行った。</p> <p>②グループホーム合同の緊急対応時の訓練や職員、支援員と迅速な連携等などの反復練習はできなかった</p> <p>③利用者と話し合い、より良い支援を職員間でも意見交換しながら行った。</p> <p>部署会議における研修は、虐待等テーマを決めて行った。</p> <p>外部研修については、コロナ禍の中で開催が中止や延期になったが、リモート研修には参加した。</p> <p>④利用者全員が楽しんで参加するレクリエーションはコロナ禍の状況もあり実施できなかった。</p> <p>各グループホームで工夫をし、室内でできるゲームなどや少人数での近所周辺の散歩などを自粛ストレスを軽減するためにも行った。</p>
	はじまり作業所	<p>①就労移行の利用者の確保との就労先の確保。</p> <p>②作業工賃のアップ。</p> <p>③職員の利用者対応のスキルアップ。</p>	<p>①人との接触が思うように出来ず、利用者確保と就労先の確保には至らなかった。</p> <p>②工賃アップは出来たが、1万円には届かなかった。</p> <p>③職員からの相談時や会議で利用者動向について話し合った際、助言する等のスキルアップができるよう指導した</p>
	杜の作業所	<p>①生活介護・障害に特化した専門的な知識や対応力を身につける。</p> <p>幅広く選択できる活動プログラムの考案</p> <p>②継続・利用者障害の特性を理解し、できる作業の獲得</p>	<p>①活動プログラムをもっと充実できるよう職員との話し合いが出来た</p> <p>②利用者の障害性を理解し、できる作業の獲得ができ、今後も継続し工賃アップにつなげる。</p>
	相談支援センターよろず	<p>①一人ひとりにあったサービスの提案。</p>	<p>①一人ひとりのニーズ、その家族の思いを聞かせていただき出来るだけ本人の思いに沿ったサービスの提案をすることが出来た。</p>
志摩	グループホーム志摩	<p>①生活の質と満足度を上げる。</p> <p>②職員のスキルアップとチームワークの構築。</p> <p>③地域に根付いた安全なグループホーム作り。</p> <p>④各グループホームの待機者確保</p>	<p>①自炊や補助食の持ち込みなど画一的な食事提供から選択肢を広げたが、行事の回数は減少した。</p> <p>新しい生活様式になじめず情緒不安定や体調不良に陥る利用者が続出した。些細なことでトラブルに発展することも度々あり、利用者のストレスや不安の解消には至らず今後の課題となった。</p> <p>②外部研修はオンライン開催となり、必要最小限にとどまった、</p> <p>シフト勤務や異職種間における情報伝達・共有は十分とは言えず、今後さらに職員が増えることを想定し、伝達・共有・記録の仕組み作りと理解が必要である。</p> <p>③今年度は自治区の清掃活動や日帰り旅行が中止となったが、一部の利用者は職員と共に避難訓練に参加することが出来た。</p> <p>④空室に対し、体験済みの利用者をスムーズに入所して頂くことが出来た。</p>

令和2年度 四季の里 事業所別事業計画及び事業報告

	これから作業所	①就労継続A型利用者を一般就労へ支援 ②作業収入を増やし、工賃への還元を充実	①A型から2名の利用者が就職することが出来た。 ②コロナの影響により施設外就労がなくなり作業収入が減少したが、代替作業は提供することが出来た。
介護	有料老人ホーム オーロラ	①安全・安心を与えられる住環境の提供。 ②生活にハリが出る取り組み。 ③重大な介護事故を未然に防止できる体制を確立	①転倒など介護事故ではないものも多数あり、完全に防ぐこと以外の迅速な対応や判断の質を上げていく必要を感じた。(入居者の性格等もあり難しい面もあるが) ②今までの職員の配置では難しかったが、シフトを見ながら取り組む習慣をつける必要を感じた。 ③朝礼や引き継ぎノート、会議等で意識改善は出来つつあるが、予防の意識が低い。 取り組み方がわからないことが考えられるため、ポイントをしぼりながら伝えていく。
	デイサービス	①「生きがい」を提供出来るプログラム作成。 ②ストレスを感じさせない介護技術の体得。 ③重大な介護事故を未然に防止できる体制の確立。	①前年度より料理のプログラム(ほとんどが職員によるが)など、変化をつけてきているが、コロナの影響で外部からの取り組みが出来なかった。 ②未経験からの職員もいるが、チーム支援を心掛けて行っている。 ③月1回の会議時にはヒヤリハットの共有、研修での意識付けは出来ていた。
	ハッピーランプ	①介護保険制度のもと、利用者一人ひとりのニーズに応じた的確なサービスを提供するため、職員として求められる基礎的なマナー、考え方を全員が共有。 ②ストレスを感じさせない介護技術の体得。 ③重大な介護事故を未然に防止できる体制の確立。	①全ての職員が完璧ではないもののお互いが助け合う気持ちで利用者支援を行っていた。 ②不満をいただくこともあったが、概ね大きな問題はなかった。 ③職員一人ひとりがサ責に必ず報告をし、未然に防ぐことは出来ていた。
	居宅介護支援事業		令和3年1月8日指定居宅介護支援事業所 廃止届出
保育	どんぐり保育園	①職員の組織化と育成。 ②保育内容の充実。 ③子ども、保護者支援の強化。 ④保育園と地域との連携。 ⑤事故災害時の適切な対応と環境整備。	①職員の退職により職員配置の変更をせざる負えなくなったことを反省するが、随時職員間が連携し対応できた点は良かった。引き続き、園児の様子を把握しながら進めていく。 ②コロナ禍で計画通り行事などをスムーズに行うことはできなかったが園児が楽しいと思ってもらえる取り組みは出来た。 ③関係機関を通じ発達、発育などでの課題を情報交換しながら必要な支援方法を工夫し進めることが出来た。 保護者支援の中で子育ての大変さを理解しながらも、就学前のこの時期の子育ての大切さを伝えていく。 (仕事を重視する母親に対し面談の機会を設ける等、保護者とのコミュニケーションを図った。) ④家庭背景の厳しい園児が昨年より増加したことで、他機関との連携を取る機会も増えた。引き続き、現状を常に把握し子どもたちを取り巻く環境を整えていきたい。 ⑤足洗い場及び各クラス前ドア修繕をおこなえて良かったが、引き続き園内環境を整える。